

～今どきケア図鑑～
口臭で恋をダメに
しないために!

ニオイBOOK

「オマエロクサイよ！のどが乾いたみたいに変なニオイがする」隣で寝ている智樹に甘えると、上のセリフを言われてそっぽを向かれた。正直それはゴ～ンって頭を叩かれたみたいにショックだった。そしてある光景がフラッシュバックしたんだよね…。

浩二と出会ったのは3年前。浩二は近所のレンタルビデオ屋の店員だった。私は、ジャニーズ系の顔をした浩二にひとめぼれをしてビデオ屋に通い続けた。

ある日、酔っ払って帰宅途中、ビデオ屋に寄って浩二に話しかけ、デートの約束を取り付けた。それが浩二と付き合うようになったキッカケ。

浩二の顔ははっきり言ってメチャクチャタイプだった。本当にかわいかったよくて、どうしてこんな素敵な浩二が、私みたいな普通の女からのデートの約束を受けたんだろうと不思議に思うくらいだった。

浩二とは3回寝た。正確に言うと2回？ 1回目はベロベロに酔っ払っていたからあまり覚えてない。普通にこなしたはず。2回目のエッチのときは、しっかり覚えておこうと思ってお酒は控えめにした。いざ浩二とキスを交わしたとき、浩二の口から嫌なニオイがしたんだよね。甘えるようにキスしてくる浩二の口からドブのようなニオイ！！鼻が曲がりそうだった。それは浩二の魅力を半減させた。半減というより、浩二に対してあきらかに嫌悪感が生まれた。3回目のエッチのとき、また浩二の口の“あのニオイ”をかいたとき、私のカラダは自分の意思とは関係なく浩二を拒んだ。

私のアソコはまったくヌレず途中でエッチをやめたん

だった…。隣にいる浩二の口のニオイがたまらなく嫌になって、私は「気分が悪くなった。ゴメン」と浩二を家から追い出してしまった。その後、何度か浩二から連絡があったけど、私は“ゴメン。やっぱりつき合うことはできません。理由は聞かないで…”とメールを返したきり、無視し続けた。

今の恋人、智樹に口のニオイを指摘されたとき、この浩二とのエピソードを思い出したの。自分から近づいて、一方的に自分から去ったバツの悪い恋の思い出。私は自分に都合の悪い事は消し去る癖があるので、それまでまったく思い出すことはなかった。でも心のどっかで悪いなと思っていたんだ。それを思い出したとき、同時に教恐怖が自分を襲った。智樹にフラれるかもしれない。口のニオイで男を振った私が、口のニオイでフラれるなんて、自業自得だ。でも、それほど浩二の口のニオイはひどかった。今思い出しても、浩二の顔よりもニオイのほうを先に思い出してしまう。口臭トラウマのあった私は、智樹に口臭を指摘されて以来、私からもあのニオイがするのでは！？と思いつめてしまって智樹と連絡を取りずらくなっていた。このままでは、フラれてしまうのも時間の問題だ…。歯磨きを1日5回した、胃が荒れているとニオウと聞いたことがあるので暴飲暴食はひかえた、ニンニクやネギなどニオイのキツイ食べ物は極力食べないようにした。それでも自分のニオイは自分では分からないから、気になって気になって智樹に会うのが恐くなった…。と、いうより智樹にフラれるのが恐くて会えなくなっていた。

「コレいいんだって」

1週間ぶりに智樹がやってきた。彼はグミキャンディーを差し出してきた。

「オマエ、俺が口臭のことを言ってから明らかに態度が違うからさ。ごめん。そんなに気にするとは思わなかったから…。お詫びにネットで口臭用のグミキャンディーを探してきたんだ! はあああ〜〜」

「くさっ!! 智樹、何食べてきたの! ?」

息を吹きかけてきた智樹の口からは強烈なニンニクのニオイがした。

「えへへ。このグミを試すために餃子食べてきた(笑)」

智樹の心遣いがうれしかった。私が気にしてたことを察して、自分がクサクなってくるなんて。智樹っていいヤツ…。

「はあああああ〜〜どう?」

グミを食べてから智樹は、再度私の顔の前で息を吹きかけてきた。かすかにニンニク臭は残っているけど、さっきよりはニオイは減ってる。

「コレあげるからどうか仲直りしてください!」

頭を下げる智樹がとっても愛おしかった。

「でも…ロクサイ女でもいいの?」

今まで悩んでいたことを口に出せて、スッキリした。

「ロクサイのはちょっとな…。でもいつもクサイわけじゃないし、コレがあるから大丈夫じゃん?」

「じゃあ×2、クサイときは隠さずに言ってね!」

「OK!」

なんかよさそうなグミをゲットできたし、智樹は優しいし、私、ロクサいのを指摘されて良かったかもしれない!